



従軍中の自筆絵葉書



浜口雄幸・若槻礼次郎首相からの書簡



著書「瀬戸内海論」
明治46年刊行及び昭和54年復刻版

五十回忌記念

小西和展

激動の時代を生き抜いた偉人



「人間問答」自筆・自刻の衝立



「瀬戸内海論」
明治46年刊行版

平成9年8月26日(火)～9月15日(月)
町立塩江美術館

開館時間 / AM9:00～PM5:00 (ただし、入場は午後4:30まで)

入館料 / 大人300円(240円) 高大学生150円(120円) 小中学生80円(60円) ()内は、団体20名以上

休館日 / 月曜日(尚、9月15日は開館しています。)

主催 / 町立塩江美術館
 後援 / 四国新聞社・西日本放送・長尾町教育委員会
 協力 / 海南文庫顕彰会

激動の時代を生きた偉人 小西和 プロフィール

- 1873年（明治6）1才 香川県長尾村に生まれる。幼名 和太郎。先祖は小西行長と伝う。
- 1877年（明治10）5才 長尾村上名藤井石浜邸の家庭に入り、論語漢語・書塾・書道を学ぶ。
- 1888年（明治21）15才 札幌松山中学堂校庭学。日記帳、小遣い帳を書き出す。
- 1890年（明治23）17才 札幌農学校へ進学。「北海道開拓者」小遣い帳を香川県報に掲載す。
- 1892年（明治25）19才 夏期休暇に道内一周、旅行日記10994に亘り香川新聞に掲載す。旅行中、右肩・下膝平野で脚氣発症を見出し、土地80万坪の私下げを申請する。
- 1893年（明治26）20才 石狩国厚田村渡島市に小西農場を開拓。香川県より島東7戸を招き、移住島東36戸となり学業を離れ島場に専念す。母上の学校神社の分霊を奉斎宇佐八幡神社を造る。後小西神社と改称する。
- 1896年（明治29）23才 幼名 和太郎を和と改名す。父 亦七郎農場にて急逝す。
- 1899年（明治32）26才 酒造・製糖工場など事業に失敗。整理に入る。上京。
- 1901年（明治34）28才 失意時代。東京市役所会談済へ月給15円で行働。社長となる。
- 1903年（明治36）30才 東京朝日新聞社入社。専業・学芸担当。月給100円専任20円受ける。
- 1904年（明治37）31才 日露戦争に村山龍平社長の特命で第一軍司令部付として北支那へ従軍し、筆名 海南・両名郎号で従軍を綴る。戦後の講和協定の調査も送稿し異彩を放つ。
- 1905年（明治38）32才 北支那2回帰国へ従軍。旅費、社2回専任休暇1ヶ月と賞与2千円を受く。
- 1908年（明治41）35才 長尾字長神社へ帰郷2500本を献木。
- 1909年（明治42）36才 同病状発生される。
- 1911年（明治44）38才 「瀬戸内海論」発行。1050頁4冊50紙。
- 1912年（明治45）39才 香川県2回衆議院議員に当選。以後9回立候補し7回当選す。
- 1916年（明治49）43才 高麗銀行製糖部・奉天奉天製糖部を創設。支店取締役として兼任。兩部より戻し、専攻専任に任ぜられる。
- 1919年（明治52）46才 国立公園法案を議會へ提案する。後、1931年成立。瀬戸内海国立公園創定なる。
- 1928年（明治61）54才 ベトナム万国議員同盟会議及び万国議員青年会議へ出席。勲三等に叙し、勳章を授けられる。
- 1930年（明治63）56才 字長神社境内に「和の碑」を建立す。北洋漁業復讐のための地産へ自費す。
- 1936年（明治69）62才 南洋諸島及びフィリピン視察。
- 1938年（明治71）64才 「海南詩集」1500詩をまとめる。
- 1940年（明治73）66才 満洲及び支那へ自費。
- 1941年（明治74）67才 郷里長尾町へ帰任す。
- 1945年（明治78）71才 「海南詩集」600詩、歌集「瀬のれ草」480首をまとめる。
- 1947年（明治80）73才 11月30日没す。戒名 順和院如常眞南居士。

今回の展覧会は、明治・大正・昭和と生きて、北海道開拓の父・ジャーナリスト・政治家としてあらゆる分野で生涯活躍した、香川県長尾町出身の小西和氏の軌跡を辿り、全貌にふれようとするものです。

小西が、亡くなってから今年で50回忌を迎え、その遺品の中より議員時代に国立公園を提唱し、瀬戸内海が今後、歩んでいく道について考察した1000頁にも及ぶ「瀬戸



内海論」を著した著書をはじめ、北海道開拓時代の日記、ジャーナリストとして戦地に赴いたときの記事、自筆の絵葉書等膨大な資料を展示し皆様にご紹介します。

—— 激動の時代を生きた偉人 ——

こにし かなふ 五十回忌記念 小西和展

出品目録：

- 明治21年～23年 松山中学～札幌農学校進学への日記帳および小遣帳
- 明治25年より香川新聞紙上に掲載された雑報記事および65回に亘って掲載された「北海道旅行日記」などのスクラップ帳5冊
- 札幌農学校生・小西農場時代の写真など
- 朝日新聞記者として日露戦争に従軍中送稿した戦争記事・自筆スケッチなどのA4判スクラップ帳34冊
- 従軍中の自筆絵葉書42枚・戦地で受け取った慰問絵葉書など30枚ほか昭和3年世界議員国際会議出席および世界一周時の写真帳5冊
- 世界一周時持参したトランク2個
- 中国・台湾・南洋その他視察時の写真帳8冊
- 特別大演習観戦式後の帰郷および開會への招待状など4通
- 大衆社・若槻礼次郎・浜口雄幸三首相その他の書簡8通
- 南滿州鉄道株式会社ほか数社の株券十数枚
- 著書「瀬戸内海論」明治45年初版および昭和54年復刻版
- 自作漢詩「海南詩集」・「臥遊集」9冊および和歌・俳句集など
- 数3等勲章および日露戦争従軍記事1冊
- 官幣社・国幣社66社の集印帖1巻
- 雑写真帖7冊
- 額面8面および掛図
- 樺村自筆・自刻の120cm/h 衝立1面

自刻の篆刻



世界一周時持参したトランク

町立 塩江美術館

香川県香川郡塩江町
大字安原上字星地6002番地
TEL(0878)93-1800/FAX93-1833

